

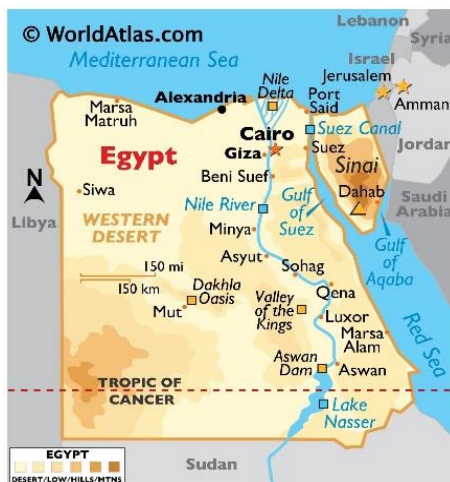
途上国アルバム：エジプト 紅海との衝撃的な出会い

池田明子

国連食糧農業機関北アフリカ中近東地域事務所 カイロ在 上級総務担当官

以前の記事（SRID ジャーナル第 22 号 途上国アルバム：エジプト）でご紹介いたしましたが、エジプトはピラミッドやスフィンクス、アブ・シンベル神殿やルクソール神殿と、観光名所が多く、また砂漠や海そして山も魅力があります。海といえばエジプトは、地中海と紅海の二つの海に囲まれています（左下地図参照）。私にとって紅海との出会いは、一言でいうと衝撃的でした。2022 年には第 27 回国連気候変動枠組み条約締約国際会議（COP27）が、紅海のシャルム・エル・シェイクで開催されたということもあり、今回は紅海について紹介いたします。

エジプトで紅海は、実は二箇所あります。一箇所はアスワン方面の海岸沿いで、スエズ運河の南方面にあるハルゲダやマルサ・アラムなどといったリゾート地です。もう一箇所は、シナイ半島の最先端のリゾート地シャルム・エル・シェイクです。シャルム・エル・シェイクは、世界のダイバーたちが集まる世界有数のダイビング・スポットで、海の透明感があることで世界的に有名です（写真 1）。まだ行ったことがないのですが、シャルムの北のダバブというリゾートには、ブルー・ホールと呼ばれるダイビング・スポットがあります。地形が長細くて深いため、経験のあるダイバーにとっても、とても難しいダイビング・スポットとして有名です。



エジプトを囲む二つの海

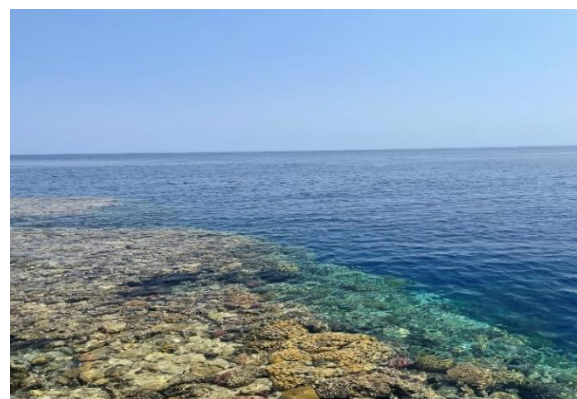


写真 1 シャルムの海は透明度が高い

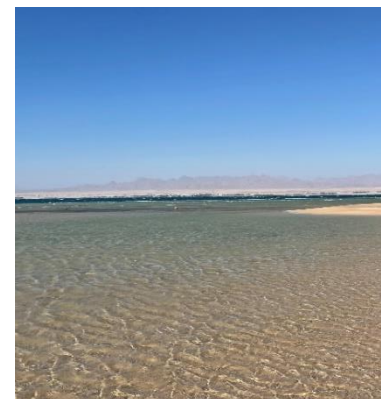


写真 2 ハルゲダの紅海
浅い海岸がずっと続く
この先は水草が生えていて
ジュゴンの餌となる

毎年行われる COP ですが、2021 年は英国のグラスゴーで、2022 年はシャルムで開催されました。2023 年はアラブ首長国連邦のドバイです。先進国だけがホストするのではなく、カタールの世界サッカー選手権もそうですが、中近東の国々がホストする舞台も近年増えています。大規模な国際会議をホストすることは、現地の経済や観光を活性化することにもなるので、途上国でも大いにこれから様々な会議やスポーツ・イベントを主催して欲しいものです。

アスワン方面の紅海にも数々のリゾート地があります。一番有名なリゾートはハルゲダ（写真 2）でしょう。ここも海に透明感があり、海の色も美しいです。また、サメに出会いたいダイバーはアスワン方面のリゾート地を目指すと聞きました。ハルゲダにサメはいるらしいのですが、人食いサメではないようです。また、マルサ・アラムというリゾートはハルゲダからさらに南に一時間下りますが、そこでは夏にクジラの祖先ジュゴンが見られます。訪れた時期が秋でしたので、私は残念なことにジュゴンに出会うことはできませんでしたが、海がずっと奥の沖の方までとても浅く、下をみると草地なのにはびっくりしました。ジュゴンが好んで食べるのはこの草地の水草なのだそうです。ジュゴンは非常に敏感な動物なので、ダイバーが発するちょっとしたブクブクという音でさっと逃げてしまうようで、なかなか出会うのは難しいとダイバーの方に聞きました。

COP27 で注目のシャルム・エル・シェイクのお話をもう少し詳しく致しましょう。実はシャルム・エル・シェイクは、海の美しさだけでなく政治的にも重要な場所です。過去、様々な国際会議や和平会議がシャルム・エル・シェイクにて行われました。2000 年 10 月の和平会議では、元アメリカ大統領のビル・クリントン氏、元パレスチナ PLO 議長のアラファト氏、元エジプト大統領のホスニ・ムバラク氏の三人が、地域の和平のために集まり議論をした場所です。また 2006 年と 2008 年には、世界経済フォーラムも開かれました。そして 2022 年の COP27 です。世界最大の国際問題ともいえる気候変動の条約会議をエジプトのシャルム・エル・シェイクで開催できたというのは、重要でかつ必要なことではないかと個人的に思います。

私は初めてシャルムという海で、海の中の生活（LIFE BELOW WATER）を知りました。まさに SDGs #14 の LIFE BELOW WATER です。それまで海、そしてマリン・スポーツなどほとんどしたことがなかったのですが、シャルム・エル・シェイクを訪れて、生まれて初めてシュノーケルの道具をつけることになりました。そしてダイブの専門の方に栈橋の奥まで連れて行かれ（写真 3 と 4）、ダイバーに「ここから底はないからね。落とすよ」とバーンと海に投げ込まれたのです。衝撃的でした。目を開いてみると、まるで見たことのない色の熱帯魚を目の前にしました。真っ赤や黄色とブルーの縞模様、パステル・ピンクとトルコ・ブルーなど、信じられないような美しい色をした熱帯魚がたくさん「生活」をしているのを横からこっそり見ることができました。東アフリカのケニアのサファリもそうですが、こうなるとまるで動物を見るというよりも動物に見られているという感じです。シャルムの海の中でもそうでした。熱帯魚を見に来たのにまるで魚に見られている感じがしたのです。

サンゴ礁に戯れる海の魚たちの自由な生活を見るだけで楽しくて、辛いことや悲しいことを一時的にも忘れられます。そしてあの魚もみたい、あっちの魚も見たい、この魚を追いかけみたいとぐんぐん泳いでいる間に時間がたちます。



写真 3 シャルムのビーチにて
この栈橋をみるとワクワクする



写真 4 栈橋の奥はこうなっていて
この先からドーンと落ちる



写真 5 夜のシャルムも神秘的

そして、こうして魚が海の中で自由に生活をし、楽しんで群れをなしていたり、同じ色の熱帯魚同士がじゃれていたり、毎日同じサンゴ礁に同じ魚が輪を描いて泳いでいるのを目の前にすると、魚を獲って頭に包丁を刺して殺し、ウロコをさばいて食べるということが辛くなってきました。私は、もともと健康上お肉（特に赤身）はほとんど食べませんし、野菜中心の生活をしているのですが、魚でさえ、シャルムを訪れて以来食べるのが心理的に難しくなりました。

こういった熱帯魚の種類と美しさにびっくりしましたが、なにより驚いたのはサンゴ礁の大きさでした。私はシャルムの海でシュノーケリングする前まで、シュノーケルとは無縁でした。そしてシュノーケリングしながら見る際、上から下に向かって見るものだと思っていましたが（要するにサンゴ礁の上を泳ぐ）、シャルムでは違います。横からみるのです。これはまた衝撃的でした。シャルムのサンゴ礁は巨大で、ダイナミックで大きな建物、あるいは大きな壁のように化石化しているのです。そして、底が 100 メートル以上もあるので、下は透き通っていますがあるところより下が見えません。魚はサンゴ礁の周りで餌を食べているので、その化石化した巨大なサンゴ礁の壁にそって泳いでいき、横からサンゴ礁や魚を見るのです。これはシャルム独特のこの地域の地形が理由です。この地域一体は、ラス・モハメッド国立公園に認定されており、シャルム特有の巨大なテーブル（台）の形をしたサンゴ礁があるのです。それらはヨランダ・リーフとシャーク・リーフと言われる巨大なテーブ

ルサンゴ礁です。またシャルムはその位置がスエズ運河・スエズ湾と紅海の接点のため、1,000種類もの多くの魚が見られます。また魚以外にも過去に沈没した船などを見に行くツアー、イルカを見るツアーなどがあります。

こうして魚の海の中の自由な生活やダイナミックなサンゴ礁を観察すると、SDGsのLIFE BELOW WATERとは一体どういう意味だったのか、考えさせられます。必要以上の魚の捕獲の制限、サンゴ礁の保護、そして透明感世界一のシャルムの海をプラスチック・ボトルやポリ袋などの汚染からどうやって守るかです。

私のエジプト生活も3年を迎えますが、コロナ禍だったとはいえ2019年から国内旅行を多くすることができ、そして素晴らしい紅海に出会え、海の生態系のことや砂漠のことなどとにかく学ぶことが多く、感激感動が続いています。



写真6 スエズ運河で順番を待つタンカー



写真7 マルサ・アラムの海岸は貝がごろごろ貝殻を拾うだけでも楽しい